



長久手町文化の家
NAGAKUTE Cultural Center

フレンズ

No. 27

2006年2月1日発行

機関紙フレンズ編集部

Tel : 0561(61)3411

新しい
年を迎え

加藤町長と

フレンズ水野会長が懇談

新春の1月9日に、長久手町加藤町長とフレンズ水野会長が文化の家の館長室で懇談を行いました。



加藤町長と
フレンズ水野会長が懇談

この日、文化の家で開催された成人式の後の、限られた時間ですが、終始和やかな雰囲気のうち、加藤町長と水野フレンズ会長との間で文化の家や、フレンズの活動などについて、懇談が行われました。

加藤町長は、長久手町文化の家は自主事業を積極的に取り組み、地域の人にたいへん喜ばれています。フレンズは文化の家の開館当初から、館の運営などを支援する目的で立ち上げられ、今まで大きな協力をいただいていることに非常に感謝しています」と言われました。

フレンズの水野会長は、私たちフレンズスタッフは、地域の皆さんに、気持ちよく文化の家に来ていただけるようがんばっています。それには文化の家の職員とフレンズスタッフが、連携し、より良い仕事ができるよう、今以上に互いの理解を

深めなければと思っています。そのために文化の家の職員とフレンズスタッフが話し合いの機会を持つなど、いつその努力をお願いしたい」と話しました。

これに対し加藤町長は、文化の家の職員も、一部の人を除けば、人事異動を避けられない。一般的な行政の仕事から専門の分野のところへの配置で戸惑いもあるかもしれない。文化の家では、フレンズスタッフと十分連携をとっていただきたい」と答えられました。

また、水野会長は、「フレンズスタッフにとっては、文化の家の催しにいらした方に、来てよかったと喜んでいただけたことが、いちばんの喜びですが、それには接遇マナーなどを正しく身につけることも求められます。そのための研修の機会などを、町でも設けていただきたい」と要望しました。

加藤町長は、万博の成果にも触れながら、「万博ボランティア



ホールで活躍するフレンズスタッフ

には地域の多勢の方が参加し、非常にたくさんの方の経験を学ばれました。この貴重な経験を生かして、フレンズなどのボランティア活動に、これからどんどん多くの方に参加いただきたい」と要望し、また、「将来とも文化の家でのフレンズの役割の大切さは変わらない。むしろ従来以上に、いろいろな場面で住民と行政が、緊密に協力・協働することが求められるのではないかと語られました。

限られた時間の中、まだ話題にのせたい事柄が多く残されましたが、フレンズの役割などについて、お互いの理解を深めることができました。

会場の準備に取り組み
フレンズのスタッフ



12月18日寒い雪の一日、フ
レンズのつどいPart. 14
クリスマスパーティー「しゃる
うい だんす」が行われました。
開演当日の午前中、準備のため
森のホールにフレンズスタッ
ッフが集合。楽屋準備、交流会
場設置、テーブルセッティン
グ、花束・プレゼント準備、ホ
ワイエの飾りつけなどの担当
に分かれ準備開始です。舞台上
に設置する交流会の会場づく
りのため、床にビニールシー

フレンズのつどい Part. 14 クリスマスパーティー

しゃる うい だんす 参加者に大好評



トを張り、テーブルを並べ、軽
食・飲み物などを手際よくセッ
ティング。客席を取り除いた平
土間は、ダンスホールとなるた
め、靴が引つかからないように
テープ張り。スタッフは昼食も
立ったまま素早くすませ、それ
ぞれの持ち場で引き続き準備
作業を続け、開場直前までいそ
がしく動きまわりました。
いよいよ開場。いつものコン
サートより着飾った観客とい
うよりも「踊ろっ！」という意
欲がみなぎった入場者をお迎
えしました。雪のため出足が心
配でしたが、171名の入場者
があり、特に今回は男性の姿が

フロアいっぱいに、華麗なダンス
を繰り広げ観客を魅了する、高島
晃治・高島敦子のお二人

多く目立ちました。
1部は「ロス・アフロ・ク
バノス」による軽やかなラテン
音楽ではじまり、MAKIEさん
の魅惑的な歌。そして、プロダ
ンサー高島晃治・敦子ペアの美
しいダンスには客席から、熱い
ためいきがもれました。
2部の交流会では、観客全
員が舞台上の中割り幕の奥に
セットされた交流会場へ移動。
普段は立ち入らない場所だけ
に、皆さんちょっと驚いた様子
でした。そこに用意された軽食
を食べながら話はずみ和やか
な交流が進みました。
そのあと、高島夫妻によるダ
ンス講習会とレッツダンス。

ほとんどの観
客が平土間にな
ったステージに
あがり、マンボ、
ジルバを楽しみ
ました。講師の
高島夫妻もダン
スの輪に入って
熱心に指導して
くださり、とても
好評でした。



ロス アフロクバノスの演
奏と、MAKIEさんの歌

参加者の声から

*すつごく楽しかった。バン
ド演奏・歌・プロのダンス、
どれもよかった。フロアで踊
れたことも魅力、でも人数が
多すぎた（驚沢？）。全体のア
イディアがすばらしかった。
(長久手 A 女)

*食べて、踊って、聴けて、
とても楽しいパーティーでし
た。
(50代男)

*とても楽しく、素敵なひと
ときでした。
(60代女)



平土間のステージでは、かなりのキャリアを感じさせる人から、はじめて踊るという人までが、ひとつになってダンスの輪ができあがりました

ダンスホールに早変わりした森のホールは、華やかなライトをあびて踊る観客であふれました。ちょっとユーモラスな審査基準で選ぶ、楽しいダンスコンテストもあって、熱のこもったダンスを皆さん目いっぱい楽しみました。

最後に、参加者全員が手をつないで輪になり、「きよしこの夜」を歌って幕を閉じました。フレンズの水野会長の「皆さん、楽しんでいただけましたか？」のことに、立ちあがっ

て拍手でこたえる観客。客席からも「楽しかったねえー」の声があふれ、観客も盛り上がりました。

終わって、文化の家を出ると外は一面の銀世界、まさにホワイイトクリスマスです。この日の「フレンズのつどい」を祝う、天からの思わぬプレゼントまでありました。

出演していただいた方々と観客、そしてスタッフが一体となって楽しんだ、充実した一日でした。



子どもたちの輝く笑顔に ホールスタッフの喜び

12月3日、子供向けに企画された「むごん劇かんぱに」のホールスタッフに参加しました。

客席は、ほぼ満席ですが、入場者の顔ぶれが、下は親に抱かれた2歳くらいから、上は小学校高学年までが大半を占めているのを見て、会場がざわつくのではと、内心不安を抱きました。

しかし、その不安は無用でした。「むごん劇かんぱに」のメンバーは、わずか3人ですが、コミカルなパントマイムや軽業を早いテンポで繰り広げ、その確かな演技力は子どもたちをつかんで舞台に集中させました。

演技をわざと失敗する、くすぐり「も子どもたちには、したたかに分かっていて、次の舞台上の展開を息を殺して待ち受けます。」



お父さんも舞台上に上がって奮闘、大喝采でした

舞台を見つめる真剣なま

なざし、ときには体をよじって笑い転げ、腹の底から笑い声を弾ませる。そんな子どもたちの様子に、ホールスタッフという自分の役目も、つい忘れて引き込まれてしまいました。

そして、子どもたちは屈託のない笑い声を会場いっぱいに響かせはしても、意味もなく騒いだり、席を立つこと

もなく、客席のマナーは立派に合格点でした。これには、舞台の演技者の力も大きかったのでしょうか。

子どもをめぐって、やりきれない陰惨な話題が続く。今、こんなに子どもたちが明るく笑顔を輝かせる公演が、文化の家で行われたことがすばらしい。

そして、その公演の「ホールスタッフ」に参加し、子どもの笑顔に少しでも役立つの奥でかみしめながら家路につきました。(N)

お知らせ フレンズ年次総会の予定

フレンズの年次総会を4月8日(土)(会場、開催時間は未定)に開催する予定です。会員の皆さんには後日、案内はがきをお送りします。

平成18年度フレンズ会員を募集します 現会員の方も更新をお忘れなく

文化の家の「フレンズ」にご入会いただくと、長久手町文化の家で行われる公演などを、たいへんお得に鑑賞していただけます。ぜひ、お友達、ご家族と誘いあってご入会ください。

会費		特典
個人会員	年間 1,500円 ただし、10月1日以降に入会の場合は1,000円	1 文化の家自主事業チケットの割引 (10%程度、会員1人につきチケット2枚まで)
家族会員 (個人会員と 同住所の 家族)	年間 1,000円 (ただし、機関紙、事業案内などの郵送は省略 させていただきます)	2 文化の家自主事業公演チケットの先行 発売(会員1人につきチケット2枚まで)
法人・グルー プ会員	年間 15,000円 ただし、10月1日以降に入会の場合は10,000 円	3 機関紙、情報誌、事業案内などをお送 りします
*会員の有効期間は、4月1日から翌年の3月31日までです		4 フレンズが行う文化、交流事業への参加

お願い

フレンズ会員の登録は、自動更新ではなく、年度ごとに登録いただいています。

現在すでに会員の方もお忘れなく更新の手続きをお願いします。

更新手続きは、3月1日から「文化の家」の窓口でできます。

フレンズスタッフ募集中

フレンズスタッフを、常時募集しています。

フレンズスタッフは、ホールスタッフなど、文化の家をサポートする活動や、フレンズが行う交流・研修などの催しに参加していただけます。

文化の家の窓口で、お申し込みください。

編集者コラム

2005年もあっという間に過ぎた。このごろは一日が30時間あったらいいなと思うのはなぜ? 気がつけば、もう2月。昨年、大型犬を飼った。もうすぐ7ヶ月、体重約26キログラム、小犬だと思えたのは2、3ヶ月ほどか。

時間も成長も早すぎる。ハア。 (き)

新春の夢

ほっと
すぺーす

長配在住 さとみ

最近、クラシック音楽を聞く若者が増えていくことを、NHKテレビ「クローズアップ現代」が取り上げていました。モーツァルトの音楽を聞いた若者達が「なんか、とても癒(いや)される感じがした」と、一様に答えているのです。

クラシック音楽のCDを出しても、一万枚売ればいい方であったのが、いま七十万枚も売れているのだと関係者の方が語っておりまして、「クラシック音楽大好き人間」の私にとっては、それは嬉しいことです。

言葉は違っても、メロディーは世界共通です。時を越え、時代を越え、国境を越えてクラシック音楽は、人々の心を癒(いや)し、人の輪をつむいでくれるからです。

今年もモーツァルト生誕250年の年にあたります。すばらしい「文化の家」を持つ長久手町民が、若者との絆(きずな)を深め、一体となつて一年がかりで練習して柿落とし(こけら落とし)のときに来てくださった松尾葉子さんに指揮をお願いして、モーツァルトのレクイエムを、森のホールの舞台上にのせることができましたら……と、新春の夢を広げていきます。